

日本語・タイ語の対照研究 — 名詞修飾節構造上の相違点における使用とその機能 —

マトカム パウイトラー

学位取得年月：平成 21 年 3 月

取得学位名：人文科学修士

学位授与機関名：お茶の水女子大学

【キーワード】名詞修飾節、使用頻度、Humanness、タイ語

【要旨】

本研究では、日本語とタイ語を対象に名詞修飾節の使用を調査した。全体の使用頻度に関しては、両言語ではほぼ同程度で名詞修飾節を用い、Collier-Sanuki (1993)で示された傾向が見られなかった。しかし、被修飾名詞の Humanness を分析した結果、被修飾名詞が Human の場合は Collier-Sanuki (1993)と同様な傾向が見られる。日本語名詞修飾節の特徴は、Human の被修飾名詞がほとんどの場合は主語で、談話に導入する際に、修飾節が ground する役割をもつ。このような名詞修飾節は、ソムキヤット (2002)で示された「非限定」用法の「眼前描写」と眼前描写と似た性質をもつ「提示的連体構文の B タイプ」の名詞修飾節であり、タイ語には存在しない。一方、被修飾名詞が Non-Human の場合、両言語に異なった使用傾向がなく、修飾節の置かれる位置による違いが見られなかった。

(まとかむ ぱういとらー)

日本人とインドネシア人の 「断り」のコミュニケーションに関する研究 — 「断り」発話と先行連鎖に着目して —

吉田 好美

学位取得年月：平成 21 年 3 月

取得学位名：人文科学修士

学位授与機関名：お茶の水女子大学

【キーワード】「断り」発話、先行連鎖、直接的断り、間接的断り、付随表現、情報要求

【要旨】

本研究では、日本人（以下 JNS）とインドネシア人（以下 INS）の母語場面における「断り」の特徴を明らかにするため、ロールプレイデータを用いて「断り」発話と「断り」発話に至るまでの言語行動（以下、先行連鎖）の 2 点に着目し分析を行った。「断り」発話では、まず JNS も INS もいきなり不可表現などの「直接的断り」を使用せずに、JNS は弁明などの「間接的断り」を、INS はためらいや驚きなどの「付随表現」を使用することで、直接性を軽減する傾向が見られた。JNS は弁明などの「間接的断り」を単独使用するなど、言葉少なに簡潔に「断り」を伝達しようとするが、INS は「直接的断り」の前後に「付随表現」や「間接的断り」を組み合わせたように、具体的に「断り」を表現する傾向が見られた。先行連鎖については、INS の方が JNS より先行連鎖回数が多く「情報要求」を多用する傾向があり、断る際の配慮として、相手になるべく期待を持たせずに手短かに断る JNS と、「情報要求」をすることで相手の働きかけに積極的に関わる態度を示してから断る INS の違いが見られた。

(よしだ よしみ)